

令和 6 年度抗菌薬の使用状況に関する分析について

1 分析目的

医療費適正化計画における医療資源の効果的・効率的な活用に資する取組の一環として、抗菌薬処方適正化に向けて、県下の抗菌薬処方にかかる現状を把握するため。

2 分析条件

次の条件により分析を行った。

(1) 分析対象

厚生労働省「抗微生物薬適正使用の手引き 第三版」に記載されている抗菌薬の種類

(2) 分析単位

国民健康保険（以下「国保」という。）及び後期高齢者医療制度（以下「後期」という。）における神奈川県全体と二次医療圏別

(3) 分析に使用したデータ

令和 5 年度診療分の国保データベース（KDB）システム突合 CSV データ（国保・後期）

(4) 抽出項目

分類、区分、抗菌薬名、一般名、先発／後発、医薬品名、薬価、数量

(5) 分析単位別人口

分析単位別人口（令和 5 年 3 月末時点での NDB データより）

	横浜	川崎	相模原	横須賀 ・三浦	湘南 東部	湘南 西部	県央	県西	合計
国保	612,479	234,937	136,011	139,792	131,330	113,261	164,798	66,754	1,599,362
後期	508,884	159,386	102,290	131,462	105,350	93,123	119,677	59,735	1,279,907

3 分析結果

二次医療圏別において、抗菌薬の使用額及び後発医薬品への置換率（金額ベース）について、国保と後期の分析を行い、結果は次のとおりであった。

なお、分析単位別人口のばらつきを補正するため、10 万人あたりとして実施した。

（用語）

後発…後発医薬品（先発医薬品と同額又は薬価が高いものを含む）

先発…先発医薬品（後発医薬品のない先発医薬品及び、後発医薬品と同額又は薬価が高いものを含む）

その他…昭和 42 年以前に承認・薬価収載された医薬品及び令和 6 年度薬価基準改定において、同一成分及び同一剤形区分の品目が全て基礎的医薬品の対象となった医薬品

置換率…後発への置換え率（金額ベース）

算出式＝「後発」／「全体（後発＋先発＋その他）」×100

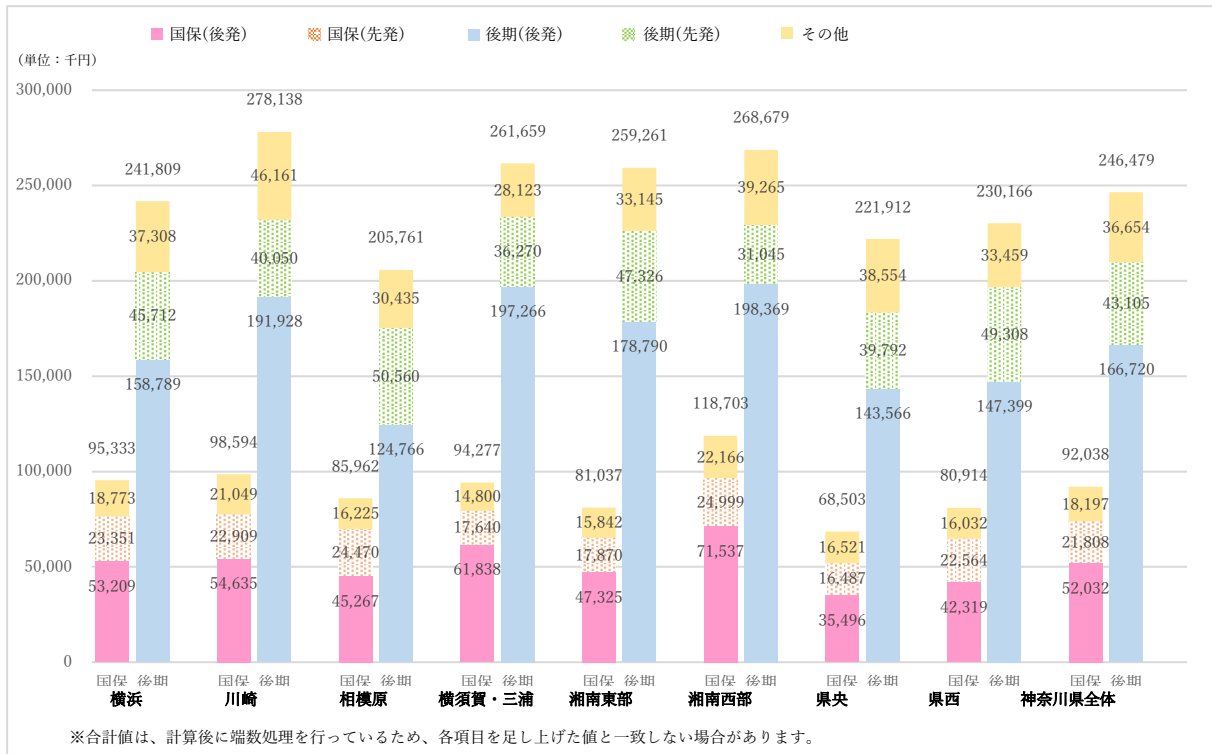
相関係数…この数値は、2 つのデータ間の関係の強さと方向性を示す。-1 から +1 までの値で表す。

+1 に近い場合、強い正の相関。一方の数値が増加すると、もう一方の数値も増加する傾向がある。

-1 に近い場合、強い負の相関。一方の数値が増加すると、もう一方の数値は減少する傾向がある。

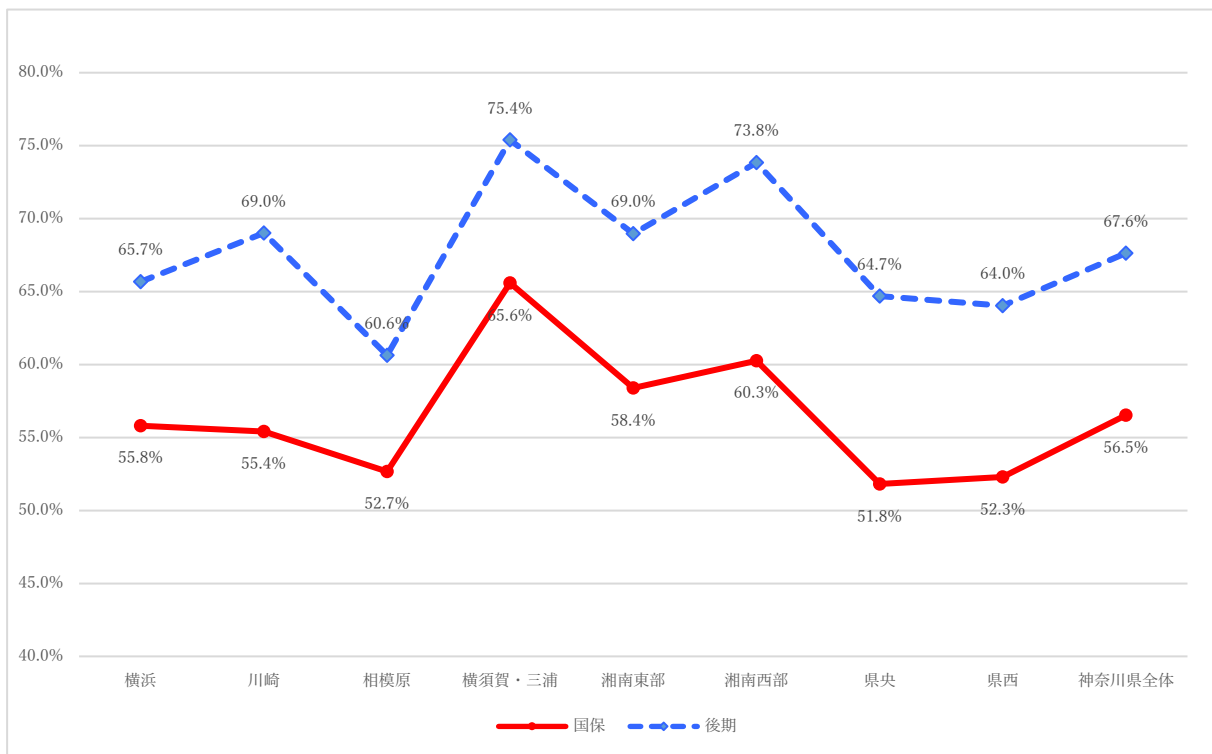
0 に近い場合、相関が弱い、またはほとんどない。2 つの数値の間には、ほとんど関係が見られない。

【国保・後期】抗菌薬の使用額



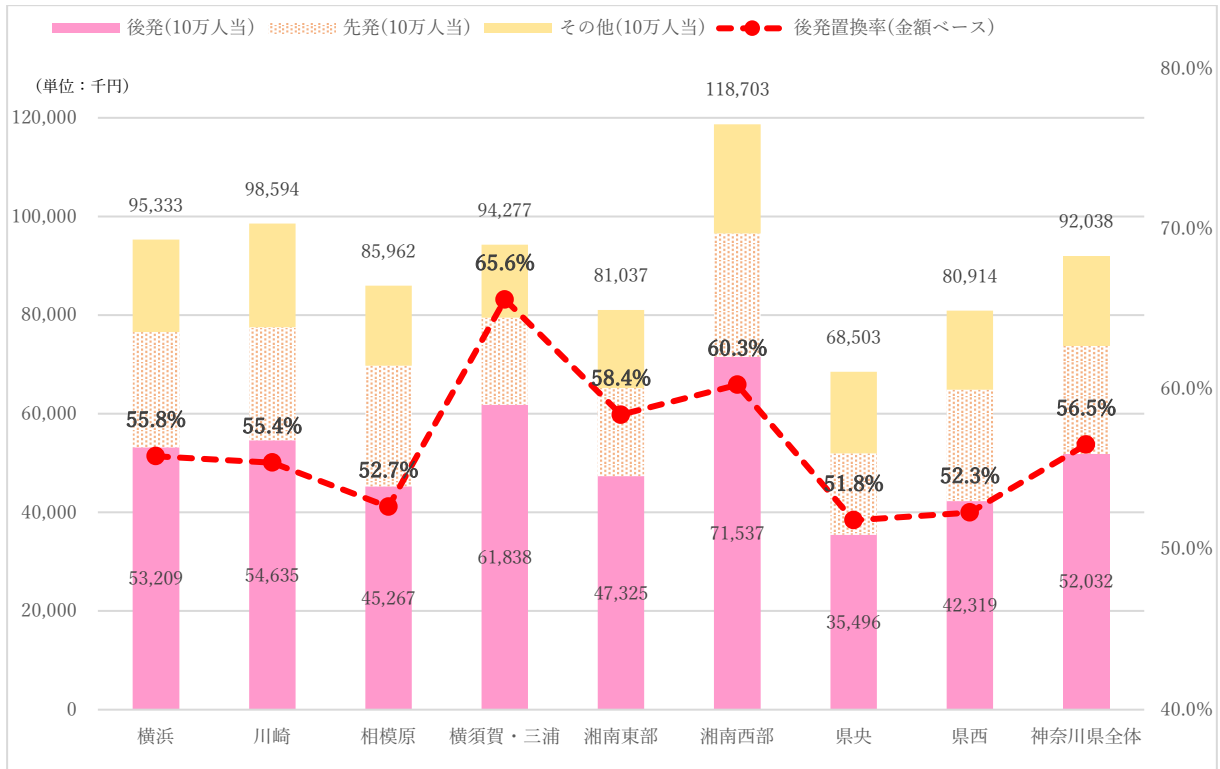
- 全ての地域で、後期の方が国保よりも、抗菌薬の使用額が大きい。
- 二次医療圏別に、抗菌薬の使用額を大きい順に並べた場合、国保と後期で順番が異なる。

【国保・後期】後発医薬品への置換率

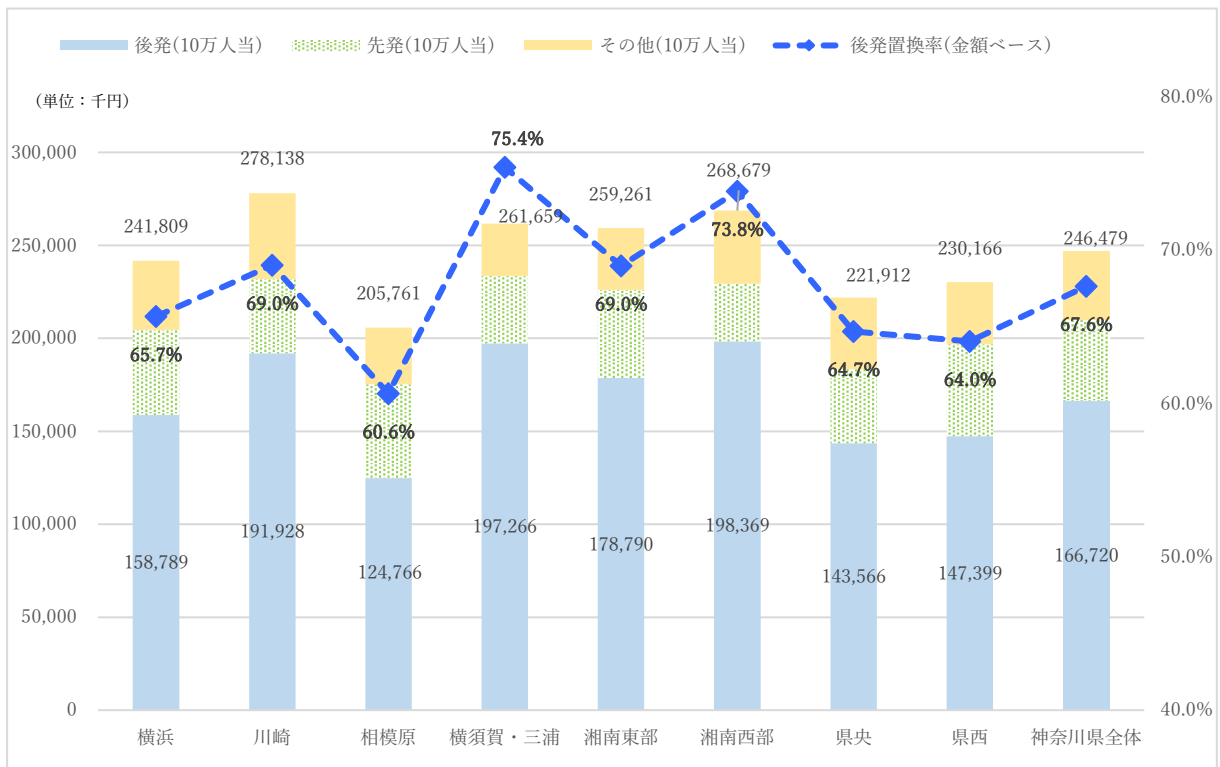


- 全ての地域で、後期の方が国保よりも、後発医薬品の置換率が高い。
- 後発医薬品の置換率を二次医療圏別に見ると、国保と後期で類似の傾向が見られる。

【国保】抗菌薬の使用額及び後発医薬品への置換率



【後期】抗菌薬の使用額及び後発医薬品への置換率



○ 抗菌薬の使用額と置換率の相関係数を算出したところ、国保 0.55、後期 0.84 であった。このことから国保・後期ともに、抗菌薬の使用額と置換率の間に、正の相関関係があると言える。